

## 記載例 28 障害補償一時金請求書

様式第 11 号

障害補償一時金請求書  
障害特別支給金申請書  
障害特別援護金申請書  
障害特別給付金申請書

1号紙

認定  
番号 0000-0000

地方公務員災害補償基金東京都支部長 殿 下記の障害補償一時金（障害特別支給金）を （障害特別援護金）を （障害特別給付金）を 請求（申請）します。		請求（申請）年月日 令和 3 年 1 月 12 日 請求（申請）者 の住所 ○○県○○市○○町1-2 ふりがな 氏名 新宿次郎
1 被災職員に 関する事	所属団体名 東京都	所属部局名 ○○局○○部
	氏名 新宿次郎 昭和38年2月1日生（57歳）	職名 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 主事 <input type="checkbox"/> 令第1条職員
	負傷又は 発病の年月日 令和元年7月5日	治ゆ年月日 令和元年12月16日
2 障害の部位及びその程度 右眼の失明		
3 既存障害とその程度 なし		
4 障害等級 第 8 級 1 号		
5 障害補償一時金請求金額 (平均給与額) (日数(ア)) (平均給与額) (日数(イ)) 15,828 円 × 503 + ( ) 円 × ( ) = 7,961,484 円		
6 障害特別支給金 申請金額等 障害特別支給金 650,000 円 傷病特別支給金 <input type="checkbox"/> 有 障害特別援護金 3,200,000 円 障害特別援護金の受給の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
7 障害特別給付金申請金額の計算 (平均給与額) (日数(ア)) (平均給与額) (日数(イ)) (A) { 15,828 円 × 503 + ( ) 円 × ( ) } × $\frac{20}{100}$ = 1,592,296 円 (B) 1,500,000 円 × $\frac{503(ア)}{365}$ = 2,067,123 円		
8 障害特別給付金申請金額 1,592,296 円		

別紙「平均給与額算定書」で算定した額

9 送金希望の 場合	振込先金融機関名 ○○銀行○○支店	* 決定金額	一時金	法第30条の制限 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	<input checked="" type="checkbox"/> 普通預金 <input type="checkbox"/> 当座預金		円	
	口座番号 1234567		特別支給金	円
	預金名義者 新宿次郎		特別援護金	円
	送金小切手 受取先金融機関名 銀行 支店		特別給付金	円
その他		合計	円	
* 障害等級	第 級 号	* 通知	年 月 日	
		* 支払	年 月 日	
* 受理 (到達した年月日)	所属部局 年 月 日	任命権者 年 月 日	基金支部 年 月 日	

銀行に届けている口座名義を  
正確に記入

## 〔注意事項〕

- 請求（申請）者は、\*印の欄には記入しないこと。また、該当する□に印を記入すること。
- 「3 既存障害とその程度」の欄には、新たに既存の障害の程度を加重した場合のみ記入するものとし、既存障害について障害補償を支給された場合は、その該当等級を明記すること。
- 「5 障害補償一時金請求金額」の欄の「(日数(ア))」の項には、障害等級に応ずる法第29条第4項に掲げる日数を、「(日数(イ))」の項には、障害等級に応ずる令第7条各号に掲げる日数を、それぞれ記入すること。
- 「6 障害特別支給金 申請金額等」の欄の「傷病特別支給金の受給の有無」は、同一の傷病に係る傷病特別支給金についての受給の有無を記入すること。
- 「7 障害特別給付金申請金額の計算」の欄の「(日数(ア))」の項及び「(日数(イ))」の項には、3の例により記入すること。なお、常勤的非常勤職員の場合この欄の記入については、別に定めるところによること。
- 「8 障害特別給付金申請金額」の欄には、「7 障害特別給付金申請金額の計算」の欄の(A)の金額 ((A)の金額が(B)の金額を超える場合には、(B)の金額)を記入すること。
- 「平均給与額算定書(2号紙)」には、この請求に係る平均給与額についての算定内訳を記入すること。
- この請求書には、治ゆの時期の決定及び障害等級の決定に必要な医師の診断書、X線写真その他の資料を添付すること。
- 年月日の記載には元号を用いる。